

もっと知ろう “陶”

26、隣村の中馬街道

中馬街道は江戸時代に信州飯田から私たちの町を通過して瀬戸経由で尾張名古屋へ至る道です。信州から米・酒・煙草などを、尾張からは塩・陶磁器などを盛んに運びました。また、街道が整備されるにしたがって遠州の秋葉神社、お伊勢さんなど参詣の道としても利用されました。

陶町の中馬街道は、昨年「陶町歴史ロマン NO.25 (陶コミ通信 H.29.4 号掲載)」で紹介しましたので、前後の町を眺めてみたいと思います。

猿爪村の東は吉良見村で、その東が明智村です。吉良見村との間には吹越峠があり、現在は掘り下げた所を通過していますが、昔は山越えの難所でありました。吹越という地名は「風が吹き山を越える」から来ているそうです。

吹越を越えてしばらく下ると「関屋口」というバス停がありますが、そこから旧道に入ると吉良見関屋の石仏群が見られます。ここは、小泉へとの分岐点ですから多くの石仏が見られます。

吉良見の向こうの明智町では、大正村を紹介する中で明智町の常盤地区を中馬街道と南北街道（三河への道）が交差する古い町並みとして紹介しています。

大川村の西は曾木村で、細野村へと続きます。曾木村との間には乱曾坂があり、旧街道には所々に右の写真のような案内看板が設置されています。土岐市の観光案内では、「かつての酒造りを営んだ庄屋さんの家がある大草辺りが旧道の雰囲気をもっと残している。」と紹介しています。濃南（曾木・細野・柿野）地区では、陶地区の盆踊りでも定番となっている「中馬馬子唄」が保存会の人たちにより唄い継がれています。

ネットで中馬街道について検索していると、かなり辛辣ではあるけど、それなりに的を得ていると思われる意見が載っていましたので要約を書き添えます。

「この街道は、その昔にはかなりの往来があり、街道筋の瀬戸・柿野・明智などには宿もあり栄えたが、鉄道・高速道路・主要国道から外れてしまったからは、横の繋がりは完全に分離してしまった。瀬戸市は名古屋の衛星都市に、鶴里・曾木は土岐市の山間部、陶は瑞浪市の奥地に、明智・上矢作は恵那市の山間部となってしまう、往来は歴史のかなたへ消えてしまった。新東名で息を吹き返した遠州森など物流・交通の拠点を取り戻す動きが重要ではないのだろうか。」



吉良見関屋の石仏群

